

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立宇都宮白楊高等学校
-----	---------------

8の行動計画	推進計画
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① 農業クラブ主催各種競技会に積極的に参加し、全国入賞を目指します。（継続） ② 各種資格取得を推奨し、進路実現につながるためにアグリマイスター顕彰制度に積極的に取り組みます。（新規）
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① 国際的な視野を持った産業人の育成を図るため、外部講師による講演会を開催する。（継続） ② 農産物の海外輸出を目指した教育や講演会を開催する。（継続）
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① デュアルシステムおよびGAP教育・GAP認証取得を推進し、地域農業の担い手育成に努めます。（継続） ② 宇都宮市の地域伝統農作物である「エソジマモチ」の栽培復活プロジェクト研究を通して、地域農業活性化に貢献します。（継続）
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 地域や学科間連携を通して、規格外生産物を活用して加工品の開発製造を行います。（継続） ② 宇都宮市の特産品である「宮レモン」を活用した商品開発を通して、地域の活性化に貢献します。（新規） ③ 酒米を栽培し、地域農家および酒蔵（宇都宮酒造）とともに商品化を図ります。（継続）
5 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 土壌分析を取り入れた施肥計画をもとに、環境に配慮した農業を目指します。（新規） ② SDGsの目標に関連させた課題研究に取り組みます。（新規）
6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 「オリスクマーケット」へ定期的に出店し、本校生産物の販売実習や生徒発表の場として活用し、宇都宮中心市街地の活性化に貢献します。（継続） ② 絶滅危惧種の組織培養による保全活動を行います。（継続） ③ 有害鳥獣を多面的にとらえ、地域の有効資源として活用できないか調査研究します。（継続）
7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	① タブレットを活用した、遠隔講演、調べ物やプレゼンテーション等を実施し、個別最適で深い学びへつなげます。（新規） ② ドローンや養牛カメラなどを活用した実習を行い、スマート農業の理解を深める。（新規）
8 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 学校周辺の災害が予測される危険箇所を自治会や公民館とともに検討し、地域の人たちと防災マップを作成します。（新規） ② 農業の持つ多面的機能を伝えるため、地域の小・中学校に出前授業を行い、防災教育に貢献します。（新規）

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立鹿沼南高等学校
-----	-------------

8の行動計画	推進計画
① 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① 生徒が目的意識を持って資格取得等に取り組み、達成感を感じるとともに、進路実現につながるために、アグリマイスター顕彰制度に積極的に取り組ませます。
② 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① 国際感覚を身に付けた視野の広い人材を育成するために、「さつき」のEU輸出に向けた取り組みや国際水準GAPに関する学習に取り組ませます。
③ 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① 高い技術と経営感覚を備えた地域の農業を担う人材を育成するために、伝統野菜の原種種子の提供、栽培技術の研究や優良なとちぎ和牛の育成・生産の学習に取り組ませます。
④ 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 地域産業の活性化に貢献するために、「米粉」や「ニラ」の普及に向け地元企業と連携した菓子の製造、販売や鹿沼の特産品を利用した新しい製品の開発に取り組ませます。
⑤ 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① SDGsやグリーンリカバリーの理念実現に向けて、環境保全・創造の意識向上と実践力を身につけるため、環境保全型農業や適切な森林管理等についての学習に取り組ませます。
⑥ 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 地域資源の新たな活用法を見いだす発想力や企画力を身につけさせるために、鹿沼土や間伐材の活用についての研究や商品開発に取り組ませます。
⑦ 「Society 5.0の時代に応じた教育」を行います。	① 産業界、地域社会と連携して、先端技術(IoT、ロボット技術)を活用し、農業生産技術や地域の課題解決型の学習を取り入れ、インクルーシブ(包摂的)で持続可能な知識集約型社会に対応できる人材の育成を目指します。
⑧ 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 地域防災の意識を向上させるために、自然災害が及ぼす農業への影響と防災・減災対策についての学習に取り組ませます。

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立小山北桜高等学校
-----	--------------

8の行動計画	推進計画
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① アグリマイスター顕彰制度への申請を見据え、農業クラブ活動や各種資格の取得を推進します。 ② プロジェクト学習に即した考える農業を実践し、解決する研究活動を展開します。
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	足尾銅山での植樹や渡良瀬遊水地での環境保全等、陸の豊かさを守る活動を通して地域と世界のつながりを考えさせる教育を行います。
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① 小山市 4H クラブとの連携を通じて、地域農業への興味関心を高める教育を行います。 ② 近隣学校への農業出前授業や給食への食材提供を通して、地域農業への理解を高める教育を行います。
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 明治期に栃木県で育種された「栃木愛国3号」を酒米種粳として提供し、地元産商品の開発に貢献します。 ② 規格外の果樹や野菜を利用した加工食品を開発し、有効利用します。
5 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 農場ほ場・学校林・庭園等を活用し、生態系や生物多様性について生徒の興味関心が高める教育を行います。 ② 選択性殺虫剤や生分解性マルチへの切り替え等を行い、環境負荷を軽減した持続可能な農業を推進します。
6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 小山地区を所管する農業振興事務所や地元酒造メーカーと連携して、水稻農家の所得向上を目指したプロジェクトに取り組みます。 ② 小山市と連携し、思川桜やあじさいによる小山地区の景観形成に寄与します。
7 「Society 5.0の時代に応じた教育」を行います。	① IoT 技術や農作業用ドローンなどを活用したスマート農業を推進します。 ② 農業生産や造園業の現場レベルで導入されている先進事例を取り入れた授業を展開します。
8 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 農作業等の安全教育を行い、地域防災に貢献できる人材を育てます。 ② 災害時に提供できる農場の物的資源や人的資源を検討することを通して、生徒の防災に対する意識を高め地域防災に寄与します。

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立栃木農業高等学校
-----	--------------

8の行動計画	推進計画
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① 教科指導、農業クラブ活動の中でプロジェクト学習を推進し、生徒の成長が実感できる教育を行います。 ② 学びの成果をアグリマイスター顕彰制度に結び付けることで生徒に自信を持たせ、進路実現を目指します。
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① SDGsに関する学習を通して、地域規模から世界規模の問題を考えることができる人材を育成します。 ② 世界の先進的な事例取り入れた学習を展開します。
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① GAPやMPS認証を通して、これからの農業に必要な知識や技術を身に付けます。 ② 県や市の公共機関、JAと連携し、地域の農業を支える人材を育成します。
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 各科の特色を活かした地域貢献活動を展開し、地域に必要とされる学校を目指します。 ② 4学科が連携し、栽培から加工、販売まで6次産業の実践に取り組みます。
5 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 校内において持続可能な循環型農業を実践します。 ② 学校周辺の自然環境を活かして、ESD教育を実践します。
6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 栃農給食や幼稚園、小学生を対象とした食農教育を実践し、地域の方々に食や農の大切さを発信していきます。 ② 地域資源を活用して特産物の開発を行い、地域の活性化に貢献します。
7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	① 栽培、飼育分野においてスマート農業を実践します。 ② 整備されたタブレットを活用し、ICTを用いた学習を積極的に推進します。
8 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 農業の持つ多面的機能や役割を学習し、地域防災への理解を深めます。 ② 測量や環境保全活動を通して、地域や学校周辺における防災・減災の事例を学び、地域防災への理解を深めます。

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立真岡北陵高等学校
-----	--------------

8の行動計画	推進計画
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① 各科で必要とされる資格の取得率を向上させるとともに、農業クラブの競技会や発表会で上位大会に出場する機会を増やし、生徒が活躍できる場を拡げます。 ② 大学進学や関連産業及び地元有力企業への進路先の拡充を図るとともに、生徒の進路を実現するための資質や技術を学び育て活躍できる教育を提供します。
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① SDGs を意識した農業教育を行うことで、食品の安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を学ぶ場を提供します。
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① 栃木県のイチゴの主力品種である「とちおとめ」「スカイベリー」栽培を行い、経営方法や栽培技術を地域に発信します。 ② 伝統的農産物の栽培や加工方法についての支援を目的に、栽培・加工技術等の改善や省力化について研究協力し、生徒が主体となって活動する場を提供します。
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 芳賀地区で生産量の多い「いちご、なす、トマト、ニラ、なし」等を利用した加工食品を開発・商品化・販売を行うとともに普及活動を行います。 ② 伝統的な和洋野菜等の農産物を栽培し、地元飲食店等に提供するとともに、商品開発や販売体験を行うことで消費者とつながり、地域の活性化に寄与します。
5 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 本校で生産される農産物において、化学合成農薬や化学肥料の使用量を削減し環境負荷を軽減する栽培方法を実践し、環境を健全な形で維持する意識を高める場とします。 ② 環境保全機能としての農業の役割について、農業と環境、グリーンライフ、その他の農業科目において学び、根幹となる考え方を学ばせます。
6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 農業士や農業技術に優れた農家、食品加工技術を持つ企業等と連携して農業教科の講師として招くことで、栽培や加工技術を向上させるとともに経営意識を身につけさせ、生徒の進路選択に役立てます。 ② 地域団体や施設との連携などを授業時間の中で取り組める活動とし、適正なカリキュラムマネジメントを行うことにより、生徒の地域活動機会を増やします。
7 「Society 5. 0の時代に応じた教育」を行います。	① ギガスクール構想にて導入されたタブレット・電子黒板を有効に活用し、将来、情報技術を有効に活用できる人材を育てます。 ② ドローン、施設の環境制御、ファームノート等を有効に活用し、スマート農業、農業のDXに柔軟に対応できる人材を育てます。
8 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 学校危機管理マニュアルに従い、農場や農業実習時に即した防災マニュアルの作成を行います。 ② 本校が、災害時における真岡市の避難場所等に指定されていることから、防災時に提供できる本校農産物の活用方法を検討し、また、非常食の開発を行う事で、生徒の防災に対する意識を高め、地域防災に寄与します。

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立那須拓陽高等学校
-----	--------------

8の行動計画	推進計画
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① 農業クラブ・プロジェクト活動を充実させ、創造力・分析力・発表力を身につけさせる指導を行います。 ② FFJ 検定取得を目指した指導を充実させます。
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① 農産物の海外輸出・輸入教育を実施し、グローバル教育を深めていきます。 ② 生徒たちが農業海外派遣研修を積極的に参加できるように推奨します。
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① 農場生産物の栽培技術、経営の学習をとおして地域農業の生産を支える人材教育を行います。 ② インターンシップ・デュアルシステムで農家や関連産業と繋がり、地域農業生産を支える教育を行います。
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① 原料生産から加工・販売まで地域の農業関連産業と連携し地域のフードシステムを学習します。 ② 農業3学科が生産連携を深め、校内で6次産業化を実施します。
5 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 農作物生産に必要なエネルギーの節約・効率化を目指した農場運営を行います。 ② 「みどりの食料システム戦略」による有機農業について学習し、地域環境を守る農業教育を行います。
6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 地域資源を活用した加工品の製造・販売を実践する教育を行います。 ② 安心安全な農産物・食品の生産・加工を行い、農産物即売会を実施し、地域交流拠点となる教育を行います。
7 「Society 5. 0の時代に応じた教育」を行います。	① ICT活用した農作物の分析を行い、栽培の判断基準にするなど農場生産に役立てます。 ② 環境制御システムを活用し、農場生産物の高品質化を目指します。
8 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 避難訓練を実施し、災害時避難訓練マニュアルの周知徹底を行います。 ② 農作業の安全教育を行い地域防災に貢献できる人材を育成します。

栃木県農業関係高等学校行動計画（第4次アクションプラン）

学校名	栃木県立矢板高等学校
-----	------------

8の行動計画	推進計画
① 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	① アグリマイスター懸賞制度を活用しながら、生徒が目的を持って意欲的に学習に取り組むために、多様な学習ニーズにきめ細やかな対応をします。 ② 生徒が習得した農業に関する知識・技術・技能をフルに活用し、農業クラブ活動（各種発表・競技会等）に関する取り組みの活性化を図ります。
② 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	① ニュージーランド派遣農業実習や北海道農業実習を通して、コミュニケーション能力や提案力、語学力を持った人材育成を図ります。 ② 海外からの日本農業に興味を持った学生を受入れ、生徒との交流を図り、GLOBAL 社会に対応できる人材育成に努めます。
③ 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	① インターンシップやデュアルシステム等の地域農家実習を通して、農業経営者としての職業観、勤労観の育成を図ります。 ② 地域農業を鑑み、地元伝統野菜である幸岡ネギの栽培や農業委員会の見学を行い、地域に根ざした農業教育を実践します。
④ 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	① インターンシップでの農業関連産業実習を通して、産業人としての職業観、勤労観の育成を図ります。 ② 地域農業関連産業と提携し、農産物の販売や商品開発に取り組みます。
⑤ 「地球環境を守り、創造する」教育を行います。	① 学校で生産する有機質肥料を有効に活用し、化学肥料使用量の低減を図ります。 ② 地産地消や食品ロスについて実践し、無駄な食品を無くす取り組みを実践します。
⑥ 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	① 地元伝統野菜である幸岡ネギを栽培し、広める活動を実施します。 ② 地元農産物であるリンゴの廃棄を利用した商品開発に取り組みます。
⑦ 「Society5. 0の時代に応じた教育」を行います。	① 農作物栽培技術のムービーを作成し、実習での利用を実践します。 ② 遠隔監視システムを導入し、その管理方法や扱いを学習しIoT スキルを持った人材育成に努めます。
⑧ 「地域防災を推進する教育」を行います。	① 地元で盛んな林業について学習し、その役割について理解させることで防災についての意識を高めます。 ② 局地的豪雨による表土流亡や排水溝の目詰まり等を回避するため、明渠・暗渠排水の整備を行います。